募金贈呈先団体からのメッセージ

子どもたちにより良い世界を

財団法人　日本ユニセフ協会
専務理事　早水　研

ＥＣＣ地球救済キャンペーンより、今年もユニセフへ温かなご支援をお寄せ頂き、心より御礼申し上げます。

今年も2009年に引き続き、5歳の誕生日を迎えることなく命を落とす子どもたちの数が更に減少して810万人となったことが発表されました。この数値は、1990年と比較して約3分の1減少したことになります。しかし、今でもこれだけ多くの5歳未満児が命を落としているのです。風邪をこじらせた肺炎や、汚れた水や不衛生な環境を原因とした下痢性疾患、マラリアは、5歳未満の子どもの死亡原因の1/3以上を占めています。これらの病気の予防策としてユニセフではさまざまな取り組みを実施しています。

例えば、アフリカ　ルワンダでは、パートナーと共に、ルワンダ全域で行っている母親と子どもたちの定期健診や、半年ごとに実施される「母親と子どもの保健週間」の機会を利用して、マラリア予防には蚊に刺されないことが大切であることを伝え、殺虫処理された蚊帳を無料で提供しています。

子どもたちの命を奪う病気の予防方法を伝えることは、子どもの生存、発達にとって非常に重要です。皆様からお寄せいただくあたたかいご協力で、より多くの子どもたちの命と成長を守る活動を実施することができます。今後ともユニセフの活動にあたたかいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

© UNICEF/HQ99-0454/Giacomo Pirozzi
ルワンダのニャンザ州病院で、マラリア予防のため、看護師が蚊帳の使い方を女性や子どもたちに教えている様子

中国陝西省銅川市南寺山で植林活動を完了
ーはげ山が緑豊かな山にー

財団法人　緑の地球防衛基金
会長　大石　正光

「ＥＣＣ地球救済キャンペーン」では、いつも当基金の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。

キャンペーンによるご支援は、当基金が中国及び東アフリカのタンザニアで取り組んでおります植林活動のために活用させていただきました。

中国は、内陸部を中心に国土の半分が大陸性の乾燥・半乾燥地域で、北西部には広大な砂漠があります。こうした地域では生態系が非常に脆弱で水土流出や砂漠化が起こりやすくなっています。当基金では、水土流出を防止するため、内陸部の黄土高原南端にある陝西省韓城市象山の緑化事業につづき、2001年から同じく銅川市南寺山で緑化事業を進め今年（2010年）秋に完了しました。この10年間に15万本近くの植林を行い、南寺山は当初のはげ山から緑豊かな山に変貌しました。そして、水土流出防止のための植林は「日中友好林」として日本と中国の友好の架け橋となることが期待されています。

これからも私たちの地道な植林活動を応援していただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

完了式典で記念植樹をする日中代表者

カンボジアの障害者に車イスと自立を

特定非営利活動法人　難民を助ける会
事務局長　堀江　良彰

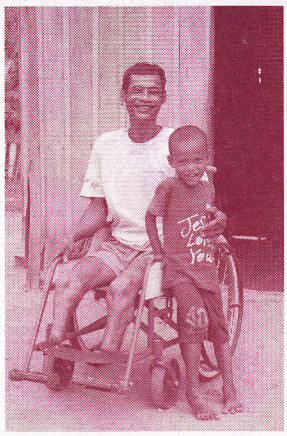
ＥＣＣ地球救済キャンペーンより、いつもご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

難民を助ける会は1979年に日本で生まれた、政治・宗教・思想に偏らない国際NGOです。緊急支援、障害者支援、地雷・不発弾対策、感染症対策、啓発を活動の重点分野として2010年11月現在、世界14ヶ国で活動を行っています。

カンボジア支援は、タイ・カンボジア国境地帯の難民キャンプでの支援に始まりました。内戦終結直後の1993年には、首都プノンペンに地雷被害者を含む障害者のための職業訓練校を開校しました。

翌1994年には車イス工房を開設し、年間約360台の車イスを製造、無償で配布しています。カンボジア人自らの手による障害者支援を目指して、2006年に車イス工房はカンボジアの団体として新たなスタートを切りました。皆さまからのご支援は、カンボジアの障害者が自立するための車イス事業に活用いたします。

今後とも、皆さまの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



© 難民を助ける会
車イスを受取った地雷被害者のスースさん

ハイチ地震復興支援
ー義足支援プロジェクトー

特定非営利活動法人アムダ
理事長　菅波　茂

ＥＣＣ地球救済キャンペーン様からAMDAへあたたかなご支援を賜り、スタッフ一同心より感謝申し上げます。2010年1月12日に発生したハイチ大地震では推定25万人の方が亡くなり、約4千人が手足を切断する重傷を負いました。AMDAは日本を含む7カ国の支部から35名のAMDA多国籍医師団を派遣し2ヶ月にわたり救援活動をおこないました。その後医療ニーズが変わり復興支援が求められ、救命の為に下肢切断を余儀なくされた被災者救済の義足支援プロジェクトを開始しました。日本人義肢装具士を派遣し、ハイチ人被災者への義足無償支援活動を首都ポルトープランスの病院内に設置したＡＭＤＡ義肢製作工房で現地スタッフと共におこなっています。

義足を装着することにより、1人でも多くの被災者が家族やハイチ復興のために貢献できるよう社会復帰の手助けをすることが目標です。

ＥＣＣ様をはじめ、皆様からのご支援にお応えすべく、これからも一層努力を重ねて行く所存です。今後ともみなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

義足無償提供したハイチ人少女と
AMDA八尾義肢装具士